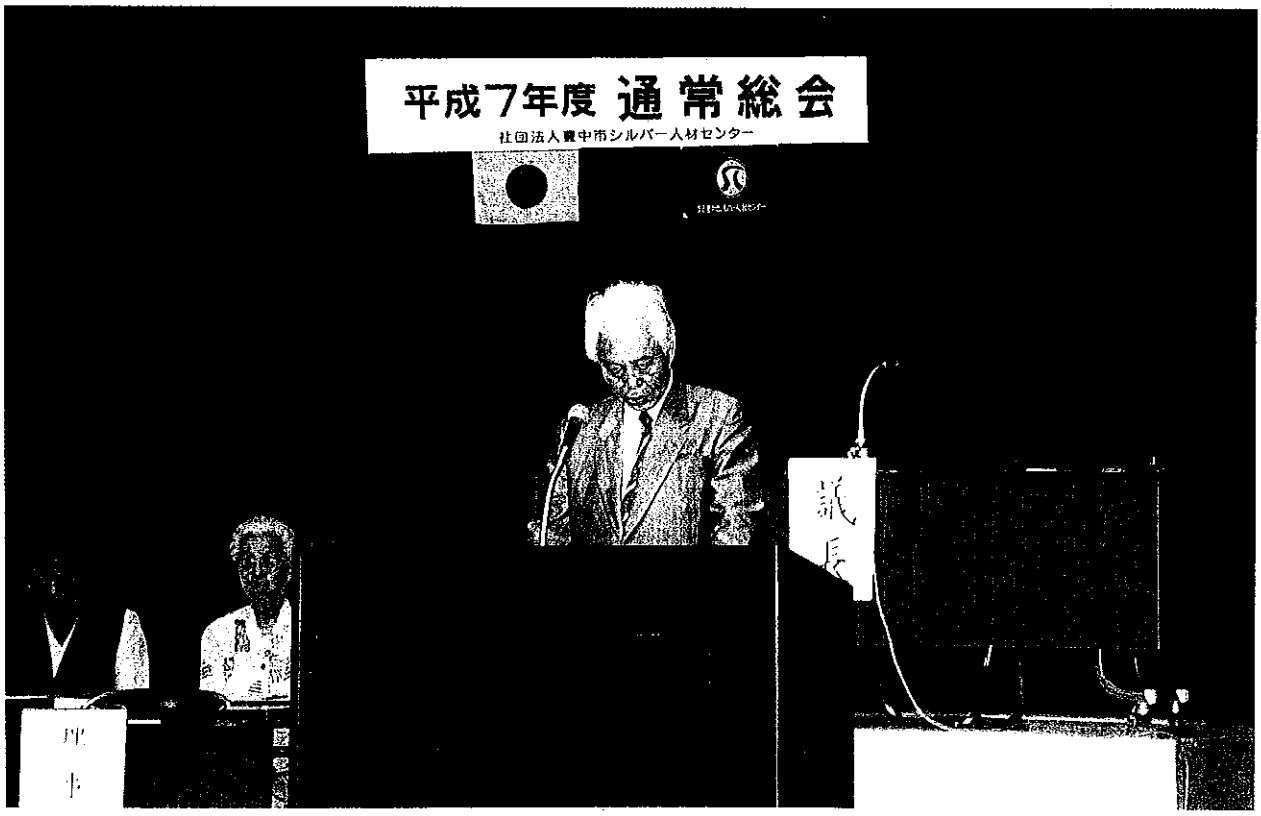
とよなか
ふれあい
■シルバーだより■

第21号
1995年8月1日
発行
社団法人
豊中市シルバー人材センター
豊中市中桜塚3丁目3番1号
TEL 856－1777

平成７年度　通常総会盛況裡に終る

５月25日午後２時から平成７年度通常総会が、市立アクア文化ホールにおいて開催されました。当日は委任状を含め、942名の会員が出席されました。第１部は、日本交通公社顧問植田善弘氏の『生きがいのある日々を送るために』をテーマとした講演があり、第２部は、正会員の岡本宗五男氏を議長に選出、議事に入り、第１号議案から第５号議案まで、全員異議なく原案どおり可決承認されました。今後とも役員、事務局職員一同はセンター事業の充実、発展のため努力してまいりますので、会員の皆様の、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



《役員紹介》

理事長　三河寛治
副理事長　宮﨑英三郎
常務理事　岡本茂雄
理事　山路政市
理事　正源義一
理事　黒岩秀子
理事　小川晋一
理事　織田照子
理事　林泰野
理事　藤田恭通
理事　上田善治
理事　吉川武二郎
理事　宇都宮義典
理事　阿南和男
理事　福田勝啓
理事　中原俊彦
監事　藤井健二
監事　藤本哲夫

ごあいさつ

理事長　三河 寛治

阪神淡路大震災ほか 内外の情勢殊のほか きびしく

本日は、平成七年度社団法人豊中市シルバー人材センターの通常総会を開催しましたところ、評議員さんをはじめ、市の関係部局の方も、公私ご多忙のところご出席頂きまして、心から御礼申し上げます。

また、このように多数の会員さんがお忙しい中にもかかわらずご参加くださいましてまことにありがとうございます。

大震災の悲惨な状況時 にこそシルバー会員の 底力を期待

通常総会を開くにあたり、ひとことご挨拶申上げます。

本年は、正月気分を吹き飛ばすような一月十七日の阪神淡路大震災に始まり、三月の地下鉄サリン事件、又円高等内外の情勢は大変きびしいものであります。

一方、当シルバー人材センターに於いても、平成六年度の契約金額が昭和五十六年の設立以来、平成四年度の実績についで、前年度に比べて落ち込むという状況でありました。

この理由としては、いまや慢性化となっている不景気の影響と、先の阪神淡路大震災の影響が重なったものと思われます。

作業分野の拡大と会員 の増加を目指して 高齢社会に対応

この大震災では、当シルバーの会員さんの内、昨日までの見舞金の集計によりますと、全壊十七人、半壊七十八人合計九十五人の方々が被災をされております。その他一部破損壊を合わせますと、相当な数の会員さんが被害を受けられたことと存じます。

ここに、謹んで被害を受けられました会員さんに心からお見舞いを申し上げますとともに、この様な状況の時にこそ、人生経験も豊富なシルバー会員がその有する知識・技術・技能・経験を地域社会に役立てる絶好の時期だと考えるもので御座います。

全国シルバー人材センター協会では、本格的な高齢社会を迎えるにあたって、現在三十三万人の会員数を二十一世紀初頭には三倍の百万人に、就業の機会を確保し提供していきながら拡大することを目指しております。

当シルバー人材センターでも、引き受けるべき仕事の分野を拡げ、仕事量の増大をはかりながら、会員数の増加を目指して役員一同努力してまいる所存ですので、会員の皆様の一層のご協力をお願い申上げます。

第13班岡本宗五男氏の 「会員の主張」全国 シルバー第一席入選は 当シルバー全員の名誉

なお、皆様がたにはすでにご案内のことと存じますが、第十三班地域世話人の岡本宗五男さんが、全シ協の「会員の主張」に応募され、第一席に入選され昨年十月に受賞されたところでございます。

全国で第一席に入選されたということは、岡本氏のみの名誉だけでなく、当シルバーにとってもたいへん名誉なことだと考えております。

本日の総会には、平成七年度の事業計画等重要な議案を提出いたしておりますので、内容のあるご審議をお願いいたいと思います。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念致しまして、私の挨拶と致します。

豊中市長　林　實

豊中市シルバー人材センターの平成七年度通常総会が多数の皆様方のご参加のもと、盛大に開催されましたことを、心からお慶び申し上げます。

平素会員の皆様方には、市政の各般にわたりまして格別のご支援とご協力を賜っておりますことに、心から厚くお礼を申し上げます。

また今度の阪神・淡路大震災によりまして、本市も大きな被害を被り、私共は現在も災害復旧に全力で取り組んでおりますが、被災を受けられました皆様方に心からお見舞い申し上げます。

当センターは、高年齢者の就業と生きがいの場として昭和五十六年の設立以来、順調に発展をされ、着実に成果をあげてこられました。

これも、ひとえに、三河理事長さんをはじめ、歴代の役員の方々並びに会員の皆様方のたゆまぬ努力のたまものと、深く敬意を表する次第であります。

本格的な長寿社会を迎えようとしている今日、皆様方の豊かな経験と能力を生かされ、共に助け合いながら、活力のある地域社会づくりにご参加いただき、高齢者の福祉増進に寄与されておりますことは誠に意義深いものと存じております。

21世紀の高齢社会に対応して「老人保健福祉計画」を具体化

今日、急速に発展する高齢社会の中で、誰もが心身ともに健康で、お互いの長寿を喜びあえる社会を築くことが、全ての世代に共通する願いであります。

豊中市におきましては。二十一世紀の高齢社会に対応するため、やさしさ・ゆとりのまちとよなかを目指し、「老人保健福祉計画」などの具体化に努め。特別養護老人ホームや老人デイサービスセンターの設備をはじめとする各種事業の推進を図っているところでございます。

今後も、市民の皆さんが健康で安心して暮らせる、そして住んでよかったと誇りを持っていただけるような活力と魅力にあふれた、更には安全な「いきいき豊中」の実現を目指して、なお一層努力を致して参りたいと存じます。

どうか、皆様方には引き続き、御支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、豊中市シルバー人材センターの今後益々のご発展と会員の皆様方のご健勝・ご多幸を心からご祈念申し上げましてお祝いのご挨拶と致します。

豊中市議会議長　垣内　末夫

豊中市シルバー人材センター平成七年度通常総会が開催されるにあたり、心からお祝いを申し上げます。

平素、皆様方には市政発展並びに市議会活動に深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

高齢化社会の進展に伴い、高齢者の労働対策、あるいは活力ある地域社会づくりにシルバー人材センターの役割はますます重要になってきております。

発足15年　シルバー会員の献身的努力に敬意を表す

このような中、貴センターにおかれましては、地域住民や諸団体・関係機関等のご協力により、大きな成果とより充実をはかってこられ、早くも十五年目を迎えられました。

これもひとえに皆様方の献身的なご努力の賜ものであり、衷心より敬意を表す次第でございます。

今後とも皆様のより一層ご尽力いただきますようお願い申し上げますとともに貴センターのますますのご発展と皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げまして、お祝いのメッセージといたします。

戦後五十年記念特集

節目の年 過ぎにし想いに心は熱く

戦後五十年を迎えて

九班
野口 高茂

一月十七日の阪神淡路大震災とオウム真理教事件により、この大切な節目の『平和の誓い』も影が薄くなり、国会決議も中途半端に終ってしまいました。

この年を迎え日本人として、殊に戦争に参加した私達は、戦争の悲惨さと平和の有難さを想い出すと共に、若い人に伝えてゆくべきと思う。今年はその最後の機会のように思えるので、ペンを執った。

即ち敗戦という未曽有の体験をした日本が、戦後半世紀の節目に国として、国民として過去を反省し将来に生かそうと決意することは、ごく自然の姿である。

温故知新は人類の知恵であり、それなくしては、個人も国家も尊敬されず、発展もない。

⊙十年ひと昔というけれど——

五十年も経てば、戦争を体験した人としなかった人、加害者か被害者かによって風化の度合いが、こんなに変わるものかと驚かされる。

戦争に敗けた悲しみと犠牲、戦後の飢餓を味わった日本人は、どんなことがあっても戦争はしたくないと思った。アメリカも日本に軍隊を持たしてはならないと、憲法が定められた。

⊙学友の死

私達は、昭和十六年十二月に初めて繰上げ卒業となり、十七年の晩秋より満洲、支那、南方へ派遣され、早い見習士官は十一月に戦死した。この戦争で三十七名の学友が戦病死した。今も五年毎に盛大に追悼法要をしている。

⊙山根薬剤少尉ビルマにて戦死す

『対岸に着きしと兵の呼ぶ声にうなづきしまま息絶え拾う』『筏の上にのせて、しっかり摑って下さいよ』と岸を離れ濁流を乗切って『少尉殿、少尉殿着きましたぜ』と耳許にくちをよせて感激にふる

える兵にうなづき返したまま、筏の上で少尉殿は息絶えられたのです。ビルマ山系、チンヂの部落から敗戦敗走の中、疲労困憊にもかかわらず、担架にも乗らず部下と共に頑張られました。遺骨箱の中は土や石が多かった激戦の中で、彼の部下によって最期の様子を伝えてくれたことは、温厚で信頼されていた彼の姿が、学生時代の彼と重なり今も浮んで来ます。

⊙インドネシアに骨を埋めた学友

去年の六月四日未明、異国の地インドネシア・メダンにおいて、養女一人に見守られて亡くなりました。インドネシア名、スフィアン・マエダです。

昭和五十六年読売新聞にて初めてインドネシア残留日本兵名簿の中に前田博の氏名を見つけた。爾来十二年間我々級友は二回訪問激励し援助もしてきた。三年前から栄養失調症？にて腰も曲り、歩行もままならなかった。

彼は、戦争末期近衛第三連隊の一将校として日本軍に協力しているインドネシア青年の指導教官として慕われていた。そして終戦と共に独立の気運が一挙に高まり、日本軍の武器弾薬を狙い険悪な雰囲気になっていた。彼は死を堵して部隊幹部を強引に説得し、武器弾薬を義勇軍に渡した。そのため原隊を離脱せざるを得なかった。日本軍からは逃亡兵の扱いを受け、日本への帰還の道は絶たれた。それからはスカルノ大統領率いる独立義勇軍と共にオランダ軍と戦った。その後、迂余曲折を経て義勇軍に貢献した功績を認められ、スカルノ大統領初め彼が教えた将軍や厚生大臣より感状をもらい讃えられた。しかし年金は僅かにして、その生活は決して恵まれていると言えなかった。勿論、日本の繁栄と我々国民の豊かさを見ることなく、清貧のうちにその一生を閉じた。

⊙死生観

去年の十月に、インドネシア・メダンの義勇軍英雄墓地へお参りに行った。甲子園球場の四倍もあろう広大な敷地に、十字架を頭に長方五角形の土葬のお墓に英雄と

して眠っていた。

薄幸の彼の人生と、軍人として信義を貫き英雄としての名誉を選んだ彼の心中に思いを馳せ、涙がとどまらなかった。

今も二〇〇名以上の元日本兵が過去の栄光を胸に、貧困の中に助け合いながら生きておられる。二世の人々も、昔の日本人のよい所を持って懸命に生きておられる。

これらの人々には、戦争はまだ終わっていない。

戦後間もなくの憲法制定議会で当時の吉田首相が『すべての戦争は自衛のための戦争を名目にして始まる』と言い切ったのは、歴史への深い洞察から導き出された言葉と言える。

沖縄記念式典で老母が『戦争はゼッタイ、イヤデス』と言っておられました。

戦争を決定するのは年寄りで、戦争で死んだり、犠牲になるのは若い人とその母や妻、女性であることを、しっかり肝に銘じてほしい。

紙面の都合にて、ここで切りますが、一枚のハガキでも結構です。戦前、戦中、戦後を体験せられた皆さんの声を、平和の希いとして期待しております。

（編集委員）

戦後五〇年と巴（ともえ）さんの想い出

一〇班　朝倉　幸子

長々しいタイトルをつけたが、今年の三月に亡くなった巴和男さんは今も私の心をやさしくしてくれる。巴さんとは個人的な交流はなかったが、短歌同好会の友人、小原すゑ子さんの従姉弟で、小原家を訪ねると時折巴さんがお酒を呑み乍ら話をしていた。その中に私も入り、楽天的で本音の話題が出来る人物であった。小原さんとは真の姉弟の様でそれに連なる息子さん夫妻とも伯父、甥の様であった。時々息子さんとも夜おそくまで酒をくみ交わしていた様である。シルバー会員としての巴さんは枝刈りなどの仕事をとても愛し喜んでやって居た。昼食時のパンをかじり五分間程休憩するとすぐ仕事にかかった。当時発注先からも好かれていると嬉しそうに語っていた。歳老いても、自分の寄って立つ場、シルバーを愛し、その仕事に生き甲斐を持った巴さんが、私はそこはかとなく好きである。そして何時も思うのは若い時は喜怒哀楽は激しいが、その時々の人とのふれ合いを好悪の情はあっても大切に出来ない人は、敗者であるとー。巴さんは無二の親友の存在をとても大切にしていた様で、昨年親友の故郷鳥取県へ二人で出かけ、身体の不自由な友に替り、お墓の掃除をしたり、三泊四日の老いの旅はどれだけ楽しいものだったか想像される。ともあれ巴さんは幸せな人間関係を創造した人である。

シベリア抑留の思い出

十五班　前田　正博

昭和二十年九月満洲「現在中國東北部」のチチハルで、千五百人程の作業隊を編成して、満鉄よりシベリア鉄道経由で、貨車にのせられ行先不明のまま出発。着いたところは「クラスノヤクスク」である。

収容所の四隅の高い見張所には、銃を持ったソ連兵が、終日監視している。これから先、どうなるのか全く判らない不安の連続でした。一番困ったことは、たべものが少なく、何時も腹をへらしていました。栄養失調と冬場の寒さでした。ソ連の民間人の黒いパンと物々交換したものでした。戦友の毛布を

持ち出して、パンと交換して一時的に食欲を満たしてきました。實に、悲惨なものでした。作業場に行っても仕事はできません。パンと交換の話し、じゃがいも拾いなどが日課でした。二十二年九月に収容所を移動して「レーニンスク」という炭坑地帯で、落盤の多い石炭堀りでした。犠牲者も出ました。幸い、私は地上作業でした。そうして、ある事情で収容所のソ連の主計中尉の当番兵として、馬を使って馬車、冬はそりを使い、自宅と収容所の送り迎えをしていました。また夏場には、コルホーズ「集団農場」にも参加して、自由な行動も出来て、たべものには不足しませんでした。片言まじりのロシア語で、話も少しは出来るようになりました。ある日、主計中尉を馬車で自宅に送り、そこで馬車を垣根につないで、自宅に立ち寄ってパン、牛乳など、奥さんからご馳走になり、馬車のところに出ると、馬車、馬共に居ない。さあー大変、急ぎ収容所の馬当番兵のたまり場に帰えり安心する。先に馬は帰っていた。馬車から馬をはづして、馬小屋に入っている。何の「とがめ」もなく無事に済んだ。色々なこともあったが、愈々二十四年九月に帰国「ダモイ」が決まる。収容所を出発の時には、主計中尉の奥さん、長男らが見送ってくれた。また煙草「カホルカ」も、土産にもらった。ロシアの人も、個人的には良い人もいる。今でも鮮明に記憶に残っている。色々の思い出を残して、二十四年九月に帰国する。

何度も危機を乗り越えて

十三班　原田　天豊

海軍航空隊とは名ばかりで、飛行機は一機もないひろびろとした飛行場の片すみの機銃陣地のそばで、戦闘のあい間に野菜を作り十cm位にのびたナッパをむしりとってみそ汁に浮かして食べた軍隊時代の青春の思い出、終戦三日前空襲で右肩を負傷、骨が見え膿みの出る傷口を包帯で包み、白布で首から吊して左手一本を頼りに帰郷した。故郷北見市は戦争が無かったかのような平和の農村でした。

冬の零下の寒さに傷が痛み、家庭の事情も有り、暖かい大阪に一人ボッチで出て来て四十年近く、今では子孫含め十六名の家長としてイバッテおりますが、その長い道程には色々な出来事が有りました。

知人も無く大阪駅に降りた時から宿・仕事と必死の思いで走り回り、昭和二十九年の春失業者の多い時代で、一人採用に三十数名の応募者が詰め掛けた。その中でKK椿本チェインに運良く入社出来て生活の基礎を作る事ができました。

途中入社の私の給料は、安い家内の給料のお陰で何とかやり繰り、必死になって探した甲斐があって二十坪の土地を借り、自分で家を建て家内の一族を呼び寄せる事が出来たが、相変わらず生活は楽にならない。当時住宅が不足で、部屋さえあれば入居希望者があった時代です。それに目を付けて貸家を建てる事にしました。少ない給料の中から柱一本タルキ一本と買い集め、三畳ひと間の部屋を建てた。家賃が入ると木材を買い敷地いっぱいに次つぎと幾つも貸間をつくったが、出来上がる前に入居者が決まり敷地がいっぱいになり三階を増築した。そのうち給料より家賃の方が多く入るようになり、生活は月々楽に成ったが、それまで会社から帰ると大工仕事に追われ、くたくたに成り、気がつくと八家族の店子に増えて居た。当時はガスも無くコンロに炭をおこし炊事全般、子供のミルクを沸かす昔ながらの生活、自分の家が建ってからプロパン・焚きフロ・冷蔵庫・テレビ・等々で文化生活ができるようになり、無いないづくしの(そのころはそれが当たり前)生活より抜け出す事ができた。豊中に移り住み大阪が近いのでアパートを建てて阪大生を多い時には二十八名下宿させた。阪大で一番安い下宿と言って利用してくれ、入学から卒業までの学生が多かったが、真夜中にはめをはづしてマージャンや焚火などで、近所から抗議の電話も数多くあり大変迷惑をかけ、たびたびお詫びに行ったその中の一人は堺市で婦人科勤務の者がおり、奥さんいつでも来て下さいと言ってくれるがもう用が無く成ってしまったが、その子か自分の部屋の柱に掘り込んだ学年名前の記念柱は、今山荘の鶏小屋に残っている。(次ぎに入る人に迷惑と言って説教し本人も頭を下げて居た)そのころ安保問題や成田空港迄応援に出掛ける学生も居て、二ヶ月も拘置され警察の出入りも頻繁で大変な時期でした。あの安アパートを利用して社会に出て行った若者も、良き父と成って居る事でしょう。

祖母の五十回忌を済ませ戦争・失明・胃がん、たびたびの危機を乗り越えた老夫婦、息子夫婦や子供等の世話になり、孫たちに囲まれ賑やかに暮らして行きたいと願っております。

会員のひろば

（順不同）

私達の骨

六班　三宅　輝男

一月四日の朝日新聞に「中高年女性の大敵」を読み大学教授のスポーツと脚の講演を聞いたことが四年前の事であった。其の内容が今になって理解されてきたが、当時は骨粗鬆症とはいわれなかった。新語の病名骨粗鬆症とは体内のカルシュームが不足、骨の成分が血液中に溶け出し、補給する補給量を溶け出す量のバランスがとれなくなり、次第に骨が弱まり、一寸したつまずきで転倒、骨折する例が特に多いのが我々高齢者である。簡単にいえば骨に巣が入り軽石の様な骨となり、男性より女性のしめる率は倍以上と言われている。

更年期を過ぎても決して安心は禁物、出産と言う大役を果たすとカルシュームが不足し、高齢者になるに従い段々と痛み出し歩行困難となる。男性も同様、同時に老化をも早めるし入院も長びく、日常生活で運動する人は骨の成分が溶け出す量が少なく、運動で補強した筋肉を保護し骨折を防ぐ、骨塩量の低下を維持する事が確認されているそうである。体操するなり歩く事によって腰椎の骨塩減と全身のバランスが鍛えられるので、効果があると言われている。

慢性的な肥満の方は余病につながる危険があるので、医師の指示に従うべきであろう。最近の家庭では欧米食にかわりつつあるので、魚類又牛乳・チーズ等バランスの取り入れを積極的に摂取すれば老化防止にもつながり、其の上毎日骨が作られてゆくそうである。最近接骨院に通院されている方が多いのも其の一例かも知れない。

昨年十月大阪府老連の紹介で大阪市立弘済院病院整形外科で、六十才以上のスポーツを行っている男女を対象に整形外科の診察を約四十分に亘り、腕の骨大腿部腰の骨、脚力其の他さまざまな精密検査を測定の結果九十％の人が良好と、素晴らしいとのおまけまでの報告を受けた。私個人コメントには脂肪不足とあり、反省すべき好材料、一歩前進の勇気を与えられた。

今日の日常生活で今一度自分の体を見直す必要があるのではないか、声を大にしての実行を切望する次第である。

最後に十一月四日の日本経済新聞に大阪市立弘済院病院と大阪市立大学医学部との共同研究チームの骨粗鬆症に対するユニークな注目すべき記事に目を引かれた。

いじめなどなかった のんびりした よき時代

四班　内田　義雄

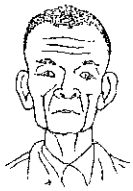
わが家の玄関先に、水道の蛇口を設けている。戸外なのでハンドルは差し込み式のタイプである。いちいち取り外すのは面倒と、ハンドルをつけたままで使っていたところ、ある日なくなってしまった。北海道のみやげの熊の小さな人形をハンドルにつけていたのだが、よほどそれが欲しかったのだろう。その日は戸外で四、五人のこどもの遊ぶ声がにぎわしく聞こえていた。こどものやりそうなことだと、その時は許すことにした。

これにこりて、今度は新しいハンドルを、水道のそばの植木鉢でふせておくことにした。先日またそれが盗まれた。前に味をしめたいたずらっ子の仕業である。他人を困らせて喜んでいるガキどもに、今度は頭にコチンときた。そして私の幼年時代がふと眼前に浮かんだ。

近所に門構えの大邸宅があった。当時遊びグループの長と自他共に許すガキ大将が必ずいた。そのガキ大将のサブちゃんが、門の隅っこの方に寝ころんで手を伸ばして、水道のハンドルを見つけ出し、私たち腕白どもは順番に蛇口から出る水で、遊びつかれてカラカラのどをうるおしたものである。そして最後にサブちゃんが、ハンドルを元の個所に必ず戻した。一同スリルと興奮の中に、サブちゃんの一挙手一動作に何だかあこがれの心を持った。サブちゃんはグループの中の弱い小さな子をよくか

ばってくれた。いじめなど全くなかった。遠い昔の思い出ながら、他人を困らして喜んでいる悪質ないたずらなど、当時のこどもは全くしなかった。のんびりしたよき時代であった。

これもまた天命
（阪神淡路大震災に思う）



十三班　原田　天豊

ドドードンーと持ち上げられてグラグラと、大揺れで目が覚め爆撃かと思った。

大きい地震だと気づき、服を着ていると頭に蛍光灯が落ちて来てばらばらに壊れた。一階に降りる階段が揺れて足元がふらつく、外に出ると台所の外側で水道が破裂、水が吹き出ている。止水栓を止め、ガスメーターを見ると数字は動いていない、近所の家の瓦や、ブロック塀が道路いっぱいに散らかっている。家に入ると台所の床に瀬戸物類が壊れて足の踏み場も無い。観音びらきの戸が開いて落ちたのです。南北に向かっている戸棚タンス類は大半倒れているのに東西向きの戸棚類は被害なし、二階の仏壇が床の間より三十センチ位乗り出しているし、両脇の飾り棚や鐘もころがって居る。増築中の家は何の被害もなし。

テレビを見ると淡路島と神戸方面の被害は甚大、まるで戦場のようだ。

電話をかけても全然通じない、そのうちに子供等より公衆電話からと言って無事を知らせて来た。山荘が気掛かり、中国高速は不通なので阪急電車が通じた日に梅田ー京都ー鳥取ー智頭ー津山ー美作と一日掛かりで山荘へ、何事も無い顔して鶏は暮らして居た。帰りは美作ー作用ー姫路ー和田山ー福知山ー宝塚ー豊中とこれ又一日がかりでした。

日が経つに従い火災の発生頻発。被害も増えるばかり、我が家の被害は僅かで済んだ事を喜んで良いものか、私等戦争体験者は何に付けても戦争を切り離して考えられない。軍歌を口ずさみ、どんな苦しみも悲しみも軍隊時代を思い起こす事で、何事でも乗り切れる不屈の精神を持ち併せているはずです。特攻隊員として次々と出撃、死んで行った戦友をお前は運が悪かったと一言で片づけてよいものか。生き残りの者はその苦しみを一生せおって生きておる。現今を考えると、この度の震災で亡くなった方、怪我をされた方は本当にお気の毒な事ですが、天命によるものだと割り切って復興に励んで頂きたいと思います。仕事に行く途中緑が丘の小高い所より見える家々のビニールシートを掛けて有る家が帯状につながって居るのと壊れて居ない家が、はっきり分かれて居るのに脅威を感じます。地盤の堅さかそれとも地盤の下に活断層が走っているのか、不気味なものです。地震より一ヵ月、家の外回りを良く見渡すと、そこここにひび割れが出て来たブロック塀に三ヵ所仕上げをして居ない壁に一ヵ所、それぞれ長さ一メートル位見えてきた。地震の後、たいした事ないと思って居たちかくの家の壁が今にも崩れ落ちそうに成って居る。長雨でも来ると被害がどんどん増えるのではないでしょうか。

山荘でも地震の被害が出て来ました。鶏が卵を生まなくなり五十%に減りなかなか元に戻りませんがいつ迄も地震にこだわって居ては生活に支障をきたします。寒さ厳しい中で椎茸百本の菌の打ち込みも済ませ、低い畑に土を入れ土盛りした上、花園にと考えて土方に励んでおりますがスコップとくわで一輪車をつかっての土運び、体がバラバラに成りそうです。もう年かなあー。豊中より山荘に運ぶ荷物が多いので軽トラで中国高速道を走っておりますが、座席が狭いので腰が痛いのとスピードが出ないので時間が掛かり過ぎ、しんどいですが、春から泣き言を言わずシルバー天国に向かって前進前進。

思い道

五班　藤本　哲夫

思い道と言っても、私が四季を通して、歩く散歩道の事である。私は此の道が好きで、年間二十回位は、歩いて居る。古墳あり、緑あり、花あり、囀あり、実にすばらしい道である。

先ず桜塚の商店街を抜けて、市役所の前に出る。正門広場には、沖縄から、寄贈されたシーサの像

がある。安全平和、繁栄のシンボルとして、沖縄では、広く親しまれて設置されて居るらしい。世界は一つ、爽やかな女性像を横目に、桜塚墓地の方へ、歩を進める。墓地の規模は大きくないが、墓碑を覆う桜の老木が、花を付けた頃は、見事なものである。

花吹雪浴びて墓石向かい合う

更に歩を進めて、埴輪道路に出る。南側に御獅子塚古墳、北側に大塚古墳、大塚公園と視界が広がる。何れも五世紀前半の円墳とある。

円墳を駈け上がる子ら風光る

公園には副葬品、三角板革綴襟付短甲、方格規矩獣文鏡などの、模型が設置されて居て、面白い。埋葬された古代人に思いをはせながら、天竺川の川沿いに出る。川に沿って百m程の、雪柳の群生がある。四月の咲き乱れた頃は、訪れる人も多い。

雪柳ふれずに通る石畳
雪柳ひしめく光放ちけり

更に歩を伸ばして、服部緑地公園西入口に到る。此の公園を散策するのが、目的である。日本都市公園百選に選ばれて居る。細かく整備されて、紫陽花の道、萩の道等、標識がある。春秋と、趣を異にする。

紫陽花の玉の相打ち雨はげし
萩揺るる順路のしるべ包み込み

中央広場には、回転花壇、梅林が顔を出す。大勢の家族連れが、シーズンを満喫して、楽しんで居る。回転花壇の上から、噴水を通しての一望は、実に長閑な眺めである。

やりすごす背なよりの風梅日和
瞬きの梅に朝日や鳥走る

花を愛でて、いなり山へと歩を伸ばす。青竹の香の漂う、竹林が静かに向かえて呉れる。

竹の秋幹より揺れて透けにけり
囀の日々高まりて森に滲む
囀の相聞暮れて空に消ゆ

更に大阪府民家集落博物館の前を通って、帰路につく。

合掌の軒の深さや庭若葉

家に着いて万歩計を見る。一万二千余歩、気分爽快、ビールが旨い。

詩 ハンテンボク

11班 横山 功一

白い陸橋が見える
——ハンテンボクの青葉隠れに
ぼくは
陸橋につながる中央駅に向かうところだ

母子づれがくる
母親の左手には
赤いカーネーションの花束がある
母親は
ゆっくりと歩いていく
子どもの歩調に合うように——
子どもは
小走りに並んでいく
結んだ掌に
手毬のように会話が弾んでいる

ときどき
身をかしげて話しかけるふうな
母親と
ピンクのリボンの髪飾りをした
子どもが
ハンテンボクの歩道を
遠ざかって行く

蝶が舞うように
はらひらはら と
そこだけがほおっと眩しい

楽しかったバスツアー

南紀勝浦・那智の滝

十六班
織田 照子

好天の六月一日、第二回一泊バスツアーは豊中市役所前を定時に出発。車中は早朝から皆さん、お元気で、和やかな雰囲気です。日帰りを含め今回で九回目のバスツアーとなり、私も初めて参加をさせて頂きました。目指すは初夏の勝浦へと…、五條を過ぎ右前方に高野山系を望み、車はひたすら吉野の奥深い山裾を縫ふ称な道を、くねくねと通り昼食場所となっている風屋ダム上流に架る谷瀬の吊り橋に到着。目もくらむ程の所を土地の人は単車で渡ると聞いてびっくり。昼食後、吊り橋を渡ったりカメラに収まったり、思い思いのひと時を過ごして再びバスで十津川峡へと入りました。山又山、空間のない深い緑の繁り際立つ碧い川とダム。余りの素晴らしさに思わず絶句、季節が変わっても此処の山々はこんなだろうか？もう一度訪ねて見たいとの想いを残して奈良県にさようなら。車は川添いに和歌山へと熊野本宮詣でをし、いよいよ潮の香り一杯の勝浦に到着。楽しみは夜の大宴会。皆様平素の精進の程を伺わせる。プロの様な多彩な芸に時の過ぎるのも忘れる位でございました。宴会係の方々どうもお疲れ様でした。宴会の後ゆっくり忘帰洞の七湯廻りを楽しみました。

石段をのぼって熊野本宮詣り

二日初夏の陽差しがまぶしいばかりの晴天、帰路のコースにと、『ごんど館』を後に舟を乗りついで、バスにて那智山へと向かいお滝を拝見、例年より水量が多いとかで一段と勇壮な感あり。青岸渡寺へはちょっと太めの私、石段が苦手でお滝の所から拝ませて頂きました。熊野灘を眺めて紀州路を南下、橋杭岩にて下車、以前車中より見て通った事はありましたが浜辺に立っての見学は始めて、景勝地にはそれぞれの趣きがあり大自然の織りなす風景にただただ感心するばかり。串本海中公園にて昼食とお買い物をし、コースはやや北上し田辺梅干工場見学。そうして今話題の吉宗展へと向かいました。華やかに繰り広げられている人形展や絵物語りをゆっくり見る間がなく、隣の黒潮市場で紀州路最後のお買い物をし阪和道を一路わが街豊中へ。こうして二日間往路は深い緑と碧を、復路は潮の香りを思ふ存分満喫させて頂きました。車中に有りましては一寸ノドが乾いたなあと思ふ頃を見計ってタイミングよく事務局の方からジュース・コーヒー・ビール等、色々とサービスをして頂きました。夕暮れ迫る頃市役所前到着。おみやげに那智黒飴を頂いて家路に付きました。大勢の方達とふれ合い、楽しく心に残った旅を本当に有難うございました。

那智の大滝を背に・中央筆者

同好会だより

ハイキング同好会

嵯峨野めぐり

十六班　水野　総一郎

梅雨の終りを告げる大雨のあと、うす曇りでどんとした重さを感じさせるお天気です。新しく参加された二、三人の方と共に三十五名は嵐山に向いました。

爽やかな1日、同好会メンバー

今日のコースは嵯峨野めぐり、歴史と風景、ロマンとお寺詣りもさせていただきました。嵐山駅より先づ野宮神社へお詣り、本殿は知恵とご利益がいただけるという、おまけに縁結びと子宝が授かるという、結構なお宮さん縁結びと子宝の方はご縁が終わった我々ですが何をお願ひされた事であろうか、青青とした竹林が両道にそびえたつ静かな道を左に大河内山荘を通り過ぎます。無声映画の頃活躍し丹下左膳を演じた、かの大河内伝次郎が造った庭園はここだなあーと思ひ、昔よく見た、しわがれ声の人をと懐かしく思ひます。通り過ぎる人も少なく私達の靴音がサクサクと音がしてゐる静けさだけです。かえでや松が茂る坂道をのぼり、嵯峨野を代表する紅葉の寺、常寂光寺を通りすぎます。

秋には、かえでが真っ赤に燃えるのも見事なことでしょう。二尊院え(阿弥陀如来、釈迦如来の二尊を祭ることから二尊院の名があります)静かで空気の澄みひやりとした涼しさを、はこんでくれる風もここちよく、

百人一首の藤原忠平(貞信公)が

小倉山峯のもみぢ葉心あらば
今ひとたびのみゆき待たなん

と詠んだ歌も、もみぢの時節が来れば風情のあることでしょう。祇王寺に向う、小路の奥にあるひっそりとした草葺きの小さな門をくぐり、竹林とかえでに覆われた苔庭が実に落ち着いて美しい。平清盛の寵愛を失った祇王と妹の祇女と母と、ともに髪をおろして結んだ庵は恋敵ともいえる仏ご前も加わり四人の女は愛憎を越えて共に仏門に身を置いたという。草庵の中は、二部屋に四人の木像が安置され、ほかに清盛の像の並んである。清盛も結構な方だなあーと、時の権力の座が偲ばれます。権力はいりませんが、あちらもこちらからもと、もてて見たいと思うのは私一人だけではないと思ひますが……今日の天候のせいか、ここでは少々むし暑さを感じました。苔庭の石、竹林と四季の木を友とした生活は何か仏門に入っての清らかさがこもっているようです。化野念仏寺に向う、ここで小休息。

生から死へ化す化野は その昔から風葬の地

化野はその昔、洛東の鳥辺野と洛北の蓮台野と並んで、風葬の地であり〝生から死へ化す〟または〝死骸が土に化す〟といった意味があり、約八千体の苔むした小さな石仏が整然として並び、その眺めは一種独特の不気味さを漂わせます。道の両側はお土産のお店が堤灯、蛇の目傘、紙人形等々、ここなればこその珍らしいものが売られ、また数寄屋造りの飲食店も京風の食べ物も嵯峨野の風景であろうか。

これより大覚寺に向う。境内に大沢池があり池のほとりで昼食をいただく。心ちよい疲れを感じて、いただく冷たいお茶の味は実に美味しい。この大沢池は嵯峨天皇が中国の洞庭湖を模して造ったことから庭湖ともいわれるそうです。大覚寺をあとに清涼寺で(釈迦堂)源氏物語の主人公源氏のモデルといわれる源　隔が山荘として使っていた棲霞寺が前身という。中国から持ち帰った釈迦如来像を祭るために釈迦堂を建立されました。将軍、網吉と母の桂昌院が寄進した堂門の宮殿には本尊の釈迦如来像が安置されています。静かに手を合わせて私たちが生かされていることを感謝しました。ここより帰途嵐山駅に向ひます。駅に着く頃は少し天気も快復、人出も多くなり暑さも加わり疲れを感じました。大変楽しく過ごさせていただき皆さま有難うご座ゐました。

書道同好会

入会のおすすめ

十六班　花城　清文

シルバー書道同好会に入会して一年になりました。会長・岩村先生の御指導のもと会員の皆様と月二回の教室ですが、和気あいあいの楽しい一時を書道を通じてすごしています。

「男女七才にして席を同じくせず」の時代をすごしてきた私達の年代でしたが、世相も変わり平均寿命の伸びた今は、50、60は鼻たれ小僧といわれています。70からでも手習い遅くないと思います。老化防止の一つの方法と考えます。童心にかえって席を同じにしてみませんか。何かやりたいと思っている方、書道に集中してみませんか。調和のとれた美しい文字を書きたい、誰しもが思うことですが。

書友の皆さんとお会いできることで視野がまた広くなり、次の会合が待ち遠しくなります。

ぜひご入会をおすすめいたします。

雑詠いろいろ

〔俳句〕

朝顔の日毎に決める鉢の向
輪の中の手花火散らすぬるい風
竹林の青くらがりの合歓の花
藤原京緑一望揚雲雀
（藤本　哲夫）

峡の村植田の色に染まりけり
送り梅雨地を揺るがせり闇の中
紫陽花をぼかす筆先黄昏るる
（江藤　翠）

ひるさがり鈴の音耳に吾まろむ
若き日のなつメロ好む初夏の夜
そら豆をむくも一人で食も一人
（村井實代子）

〔短歌〕

吾病みて天井の数わびしくて
訪ね来る友指折りかぞへ
あと二年古稀を迎えて短くも
長くもあり余生たのしく
（村井實代子）

〔川柳〕

皮下注射きつい返事が身に応え
いずれこの世は加害者か被害者か
煙突のてっぺんにきた蝸牛
読み返す手紙に父の誤字がある
めし茶碗妻は味方と信じたい
（石川　勝）

あとがき

本誌も回を重ね、カラー印刷・アート紙と、どこよりも立派な装丁になりました。会員の皆さんは、共に働くことにより社会及び働く仲間の「ふれあい」を深めておられます。

一方において、働く機会の少ない方、千名をこえる方々とは、機会がございません。

本誌により、文字を通して「ふれあい」即ち豊富な人生経験、知識の交流の場が広がることを願っております。

いつもながら、人物のカットは中村徹夫さま（豊中市福祉保健部長寿社会施策推進室）にご協力賜りました。厚くお礼申し上げます。

（編集委員）